



日本共産党  
札幌市議会議員

# 井上ひさ子

## ていねプール存続を

ひと夏で10万人を超える子どもや市民が集うていねプール。事業仕分けの対象になり、地元のお母さんたちが、8982筆の存続を求める署名を集め、議会に陳情。共産党の追及に担当部長は、事業仕分けをする人に十分な情報を提供することができなかったことを反省し、子どもたちに心配かけたのは本意でないと、存続を表明しました。「条件つき存続」を求めた議員がいたため、「条件をつけるべきでない、無料で存続を」と厳しく求めました。



## 住宅リフォーム助成 予算4倍加

日本共産党が、くり返しもとめてきた住宅リフォーム助成制度が2010年に実現。2011年度、2500万円でも予算が不足し、新年度4倍1億円の予算が盛り込まれました。20億円の工事発注、さらに経済効果は32億円（発注額の1・59倍）とのこと。共産党は、予算枠の拡大、助成対象を住宅全般に拡大、建設業登録要件の撤廃など、使いやすい制度を求めています。

## ワーキングプア解消 公契約条例継続審査に

ワーキングプア、低価格入札などいっそう深刻です。本市でも最低賃金より低い賃金しか受取っていない指定管理業務に従事している実態があることを指摘しました。企業も働く人も苦しい状況から抜け出し地域経済を循環させる方策として、公契約条例は大事な役割を果たします。条例を早期に制定すべきです。

市は、1億円以上の工事を対象に労働者の賃金状況の報告に係る事務処理の確認、検証を行うモデル事業を一定期間行います。

## 発達医療センターの移転 近くでリハビリを

発達医療センターが豊平に移転後もリハビリ機能は現在のセンターで引継ぐか、通いやすい場所にサテライト的なものをつくるべきと求めました。遠くなり「訓練機会が減るのではないか」と心配の声が寄せられています。子ども未来局長は、「訓練に不便になるのは、北区、東区、手稲区の就学児童と考えられる。訓練に通うのに影響のある方の人数、意見を踏まえ、訓練機会を確保する方策を検討していきたい」と答弁しました。

## 市議の海外視察凍結 今年度分1360万円も奨学金に

議員1人に、4年間で80万円を上限に「海外視察」に行ける制度があります。共産党市議団は、20年前から自主的に「海外視察」をやめ、廃止を主張してきました。今期（4年間）海外視察費を凍結させることになり、昨年度の1360万円を奨学金に繰り入れ、今年度分も奨学金で活用します。「今期分すべて奨学金に活用を」と求めています。



### ●市民の立場を貫く共産党市議団—意見書などへの各党の態度

	意見書名	各党の態度							結果
		日本共産党	自民	民主	公明	市民ネット	改革クラブ	みんなの党	
2012年3月第1回定例会	年金制度の改悪に反対し、制度見直しの情報の公開を求める意見書	○	×	×	×	○	○	○	否決
	政党助成制度の廃止を求める意見書	○	×	×	×	○	×	×	否決
	消費税増税に反対する意見書	○	×	×	×	×	○	○	否決
陳情 (2012年3月第1回定例会)	〔児童クラブ利用料導入の見直しを求める陳情〕 〔保育料の値上げに反対する陳情 15件〕	○	×	×	×	×	○	○	否決

**井上ひさ子  
市政事務所**  
札幌市手稲区前田4条11丁目  
9-25  
電話 684-4533  
fax 684-4534